

2018年07月24日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【G20は、米国に対抗し切れていない】

日米欧と新興国の20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議が、この週末に行われた。

共同声明では、
「貿易の緊張が高まって、世界景気に下振れリスクが増している」
と、米国が原因となる貿易戦争を懸念した格好が示された。

そして、共同声明には「保護主義と戦う」という文言も盛り込まれた。

今回のG20会議では、米国が行った貿易制限に非難が集まった様子だ。

共同声明では世界経済について
「底堅い経済成長が続いているが、貿易や地政学的な緊張の高まりが、短期的、中期的にみた下振れリスクになっている」
と危機感を示している。

その上で、
「リスクを軽減する行動と対話が必要だ」
と述べている。

+++++

今回のG20の共同声明を見ると、G20は、米国の保護主義的な貿易政策に対して、危機感を示した。

そして、G20は、「保護主義と戦う」と述べている。

いかにも、共同声明では、米国がG20と行動を共にするかのように見える。

しかし、その文言に騙されてはいけない、と考えています。

+++++

G 2 0 の共同声明には、「保護主義と戦う」と謳ったものの、どのように戦うのか、具体策が全く見えてこない。

G 2 0 会議後の記者会見で、米国のムニューシン財務長官は「米国は最も巨大な自由市場国であり、保護主義という根拠は全くない」と述べている。

その上で、
「米国は巨額の貿易赤字を抱えており、均衡のとれた貿易を望んでいる」
「各国には関税や輸出補助金をゼロにして自由貿易を一段と深めるように要請した」と付け加えた。

つまり、米国が、輸入制限の撤回に動く兆しは全く無い、ということだ。

今回のG 2 0 では、表面上は、協調的に共同声明が採択されたが、その重要な貿易に関しての内容では、各国の思惑が一致しなかった、と判断して良い。

+++++

むしろ、これからのことを考えると、今回のG 2 0 は無視をして、「今後、トランプ大統領が、どういった貿易政策を展開するのか？」に注目をした方が良い。

G 2 0 という国際的な会議よりも、トランプ大統領の言動の方が、マーケットに対する影響力は甚大である。

G 2 0 の形骸化が叫ばれて久しいが、G 2 0 が、米国という大国に対抗し切れていないことが、明白になった、と考えている。

+++++

(2018年07月24日東京時間14:40記述)